

## テラヘルツテクノロジーフォーラム通信

Vol.7, No.2

## 「Terahertz Science and Technology」

福井大学遠赤外領域開発研究センター特任教授  
出原 敏孝

4月上旬、共同研究のために訪れた大阪大学蛋白質研究所では、研究所棟前の桜が満開で、天候にも恵まれていたので、研究所の皆さんとつかの間のお花見を楽しんだ。その週の週末、福井では足羽川の堤防に広がる桜が満開に近く、ここでも再び優雅なお花見の機会に恵まれた。その後、4月中旬の日曜日に、翌日の東京でのミーティングに出席するため、福井から直江津、越後湯沢を通る経路で上京した。この折には、桜前線は、すでに直江津にまで達していて、魚津、糸魚川あたりでは、車窓から霞のように美しい桜をいたるところで眺めることができた。日頃の多忙を一瞬忘れさせてくれる桜との出会い、この季節には、この楽しみに出会うたびに日本に住む幸せを思う。



いきなりたわいないお花見のことを書いたりして、不謹慎だと思われるかもしれない。しかし、私は、科学技術の新たな展開にしても、テラテクフォーラムの目指す産官学の連携によるテラヘルツ技術のイノベーションにしても、基本的に、これに人間が関わっている以上、多忙な中にも心の余裕を持って、楽しみの心を忘れないことが大切ではないかと思う。その中から、真の「連携」も、新たな科学技術も生まれ、育っていくのではないか。

最近のテラヘルツテクノロジーの進歩は著しく、まさに日進月歩の感がある。現在、「テラヘルツ」の代名詞とも思える程に発展を遂げた THz-TDS は、テラヘルツ分光・イメージング等、応用面への展開も図られ、テラヘルツテクノロジーの中核として、今後のますますの発展が期待されている。この技術の真髄には、Science のすばらしいアイデアがあり、THz-TDS は、これを支える光源技術の進歩とあいまって、でき上がった技術といえるであろう。テラヘルツに限らず、すぐれた技術には、基本に Science のアイデアが不可欠である。

私の関わっている高出力テラヘルツ光源 – ジャイロトロンの開発は、そのルーツをたどれば、